



行水金鑑俗抄

愛知県文化会館

556654

A517

コ

行水金鑑俗抄

一 蹊を築ハ氷を臣のよせ氷の力を備  
少と推し流をやうにたれ我等一義と  
是ハ昔々黄川の乃小云清水泥所川  
打つハ流杯と茶難  
一 胸中小河の今我を心けて後河を流す  
也



一 一隻の禹王の九河を治る具河下の泥砂を  
治へたふのを川下を治る川上と云切るれに  
宋朝よりとる黄河を治へ治へる具河  
又河下も船を走し舟を舟たる態も  
やうのものにも泥砂を治りて流を  
治へるなり

一 河治に入るの道を治りて河下を定  
治の具河を治りて氷を治りて

一 川治の院を治りて又更に普治を治りて  
川下を治りて離れと相治を治りて大氷の  
氷を治りて治りて

一 秋先供氷の食の地を治りて氷を治りて  
治りて

一 院を治りて川氷を治りて海へ流し治りて  
治りて禹王も九河を治りて氷を  
治りて海へ流し治りて



- 一 河隈ハ夫々の供水ハ防針ナレバ大抵の  
水ハ隈ナクテハ防針ナレバ河邊ナリ  
遠キナリテ築キナリテ
- 一 隈ハ夫々の所ノ水ナリテ去ルニ於テ築キ  
切ラレバナリテ水ナリテ水ナリテ  
を修リ水ナリテ水ナリテ
- 一 河ノ所ハ廣キと云フ
- 一 水ナリテ水ナリテ水ナリテ

河申付よりなる

- 一 大水の長切而又ハ防針方の為孟秋の頃  
ハを名の仁村ハ命一を命一を命一
- 一 所ノ板竹石床并茂茂中木柳の枝系を  
多クおさへ免佛と云ふのを修リ隈の  
難所を防針又切而ハ掃を幾つと候  
かき水と云ふも由に云フ

掃の地方未だ記す

一 宋の太祖は舊の郷村古来の定に唯  
來者<sup>を</sup>を植<sup>す</sup>ことと植<sup>ふ</sup>一<sup>畝</sup>の<sup>上</sup>を<sup>履</sup>  
に<sup>か</sup>ち<sup>第</sup>一<sup>番</sup>の<sup>百</sup>姓<sup>に</sup>は<sup>柳</sup>を<sup>去</sup>る<sup>に</sup>  
よ<sup>く</sup>と<sup>た</sup>つ<sup>樹</sup>を<sup>每</sup>歲<sup>を</sup>植<sup>け</sup>り<sup>植</sup>  
第<sup>二</sup>番<sup>め</sup>より<sup>十</sup>本<sup>を</sup>と<sup>減</sup>せ<sup>し</sup>を<sup>月</sup>  
多<sup>く</sup>植<sup>す</sup>を<sup>新</sup>ふ<sup>もの</sup>に<sup>計</sup>して<sup>栽</sup>  
一<sup>河</sup>を<sup>急</sup>の<sup>役</sup>人<sup>に</sup>治<sup>め</sup>ると<sup>秋</sup>の<sup>末</sup>旱<sup>氷</sup>  
と<sup>待</sup>て<sup>代</sup>り<sup>合</sup>へ<sup>一</sup>院<sup>を</sup>治<sup>り</sup>見<sup>送</sup>り<sup>河</sup>を

の柳<sup>を</sup>と<sup>盜</sup>伐<sup>れ</sup>り<sup>と</sup>考<sup>へ</sup>て<sup>制</sup>を<sup>一</sup>  
一<sup>長</sup>堤<sup>木</sup>に<sup>元</sup>と<sup>ゆ</sup>く<sup>横</sup>より<sup>一</sup>枝<sup>村</sup>の<sup>木</sup>を  
毎<sup>一</sup>院<sup>毎</sup>の<sup>庭</sup>に<sup>庭</sup>を<sup>治</sup>り<sup>庭</sup>を<sup>治</sup>り<sup>水</sup>を<sup>防</sup>  
乞<sup>と</sup>木<sup>詭</sup>と<sup>云</sup>

一 河水<sup>が</sup>下<sup>の</sup>に<sup>居</sup>る<sup>所</sup>を<sup>一</sup>院<sup>毎</sup>  
に<sup>私</sup>の<sup>手</sup>を<sup>治</sup>り<sup>院</sup>に<sup>控</sup>割<sup>へ</sup>り<sup>一</sup>  
一<sup>水</sup>の<sup>防</sup>方<sup>は</sup>を<sup>治</sup>り<sup>水</sup>を<sup>防</sup>る<sup>水</sup>  
防<sup>一</sup>水<sup>に</sup>逆<sup>ら</sup>ひ<sup>水</sup>を<sup>防</sup>は<sup>け</sup>り<sup>一</sup>







一 河の流方若地にては末より南り碍り  
出する巨のなり若地と世伝為して  
南碍遅く悪りれ世伝ありて南碍速  
か来る是古今不易の定論なり

一 大木を伐枝系多くを流碍速し之に  
切り木竹水は流く節くやうに竹は  
南碍速く流くは方のなりし松乃  
こゝ

一 大河に大木の流木披のむに水係流  
まゝ小川を流す

一 河筋の曲らぬ直地より河の流口と  
を以て直地地より川中の廣うす  
川中の深きより

一 石柝やうのものを流木をけ陸奥は  
ぢんす

一 古人の流仕よはれは必切有るや









木丈に修後——予諾の角に圓三村本を埋め  
その上面まで土を並置をせし者村本の  
おろやうになさる修後を打と又圪の肉を  
柱——柳まき——しりとハ裁はひめけせハ  
隈は切るとれや——少りや——是ふその人の  
は白くすなり

一 既ハ氷に凍く——高他を分は——氷をさ  
道堂にそ再三吹来——それを目高に

高他を分は——

一 小川をわけ氷塊を分はと基とれは  
川流一伝なり——此もも下有水の塊  
つきとく争くうす

一 川ハ潤く川底が狭きうす——川底ハ口  
のほとり——ゆられと——そ長の間は少き  
ゆら

一 急流の河川の中は氷を揃ふか——後凍

河平杭本を打圓免動くぬきうに打  
出柄の鉄を供りたるらゆて中のものは  
大勢並居り一なに泥砂をりきたて推  
流し流るるとは又水を移りかきたて  
流を是にて流成の働り回し水も  
流す便利あるのと打もをきて打し  
人又水中に入らる一舟人又を懐く  
仕うともと

一河後の古河居より十圓解をきて引  
なり一重耕化の害にならぬ事にて下  
地築にを用也川急に急けはぬ水もて  
ましく川中へ流さばよあり

一陸築方を改じよま横小掘刺居る一  
誰やうのものにて刺もなるは益也  
一陸をより人又の意郷の者を用らるに  
又段を番を立たり東の堰ともなる



かへてきふ下

一切に八まで言く漏く丈丈に堅く築  
つゝ乃乃もやうに構なると敷へ

一 洗廻りの中常要の所に平日より乾くと  
朽屋と横並固古に焚へ一 朽屋は横  
方のみちの意迎除易くてもも男差別  
有へ一 且前條に凡へて一 掃の類構なと  
水防の为りなるものなり作り並是又氷

のち尚とまへ一 洗廻り木々に番小倉と  
並並直夜見白くせ止構と敷へ下  
若院と切柳なと浅濠をのめ一 掘捕籠  
建へ一 役人も古く凡白り急難の場  
つゝ小倉まで鳴物ふの合固より番小倉の  
との人丈と石を來カ浅合せ防へ一 右  
番小倉の引白人を々百姓中にて儀に  
精を出し者を撰ひて云付へ

一河端は法色小庵と坐垂入用の法色と  
新入垂一小庵者或三人云付坐及こ  
入用の事と意味は下

一河の夏目の塵拂は海方に出来りまの  
なりを節の役人一亦信心一置一役た  
一一外より役是云一は乃れ乃れ遠も  
お尋て終は時後と成是害あり  
一古語に農業のより一能と云う一下男は尋

穢穢の事一穢子の下女に為ぬ一河  
及と念回一ク一も其役と勤めを  
副たる能役人に任せ一垂一か大に害は  
その事一亦業内なる者一櫻に任は一六  
害多一と業内なる者一大車の場は  
常信の仕方一也一此の念也一う一仕て  
又て由うぬにより始て氣うはさ一信一る  
由一大分の費用出来て一此一なり

如し小役人をいへば、その小役進下也  
下は、扇になく、身にあらざる人の心成  
扇より、小役の規程の法、役止り上へ  
わい、修く、り、上、さ、は、た、く、大、意、清、の、み、  
有、と、固、より、を、事、に、よく、引、たる、念、を、  
何、れ、他、も、た、く、物、事、の、成、り、な、り、表、を、  
人、室、可、小、の、勅、め、あ、ま、ハ、我、より、評、刺、矣、  
後、を、る、也、  
結、核、上、取、之、ら、と、た、る、論、を、く

法、自、乃、種、成、為、さ、る、所、の、る、小、念、の、と、  
る、ま、は、何、れ、と、我、も、難、回、始、に、思、ふ、一、  
一、河、乃、に、於、け、ば、役、人、の、勅、言、より、賞、符、勅、  
懲、を、と、き、事、く、勅、記、を、と、き、た、り、林、は、を、  
心、の、を、目、送、り、小、勅、を、若、有、又、事、を、好、ん、  
子、を、世、子、お、ま、を、と、仕、入、り、き、礼、を、者、も、有、  
け、り、等、の、罪、何、の、由、を、ま、よ、め、ま、は、た、い、を、  
治、る、小、夷、杖、杖、と、守、ら、う、ふ、く、  
保、を、指、く、ハ



款を請うてし 名いと親と守る者ハその  
勲方をして書滿年内の切をふ事ハ其ハ  
人のうらと願ふはなるなり 河越の役人  
因由とも不所を歩けり 昔昔とけハ  
名いと親と守るふに消らば然ハ年内の  
切を貴甘ぬハ人情は遠く仕うしあり 勲方  
行取ぬ者ありと勲方立ハ此貴もあり  
へきてしあり 主事と仕遂るる主物の人

ありハ常例に抱らば然然皆昇進と  
ふてしめられし 昔加坊とてハ 君親  
宛りを願ふはなるなり 之の心は何れ  
邪戸に如人ハ其不勲なる 或評評ハ  
急度云々

一 河越子等 役人主者より久し 仕て  
為し 仕て 主事ハ先役後役各見儀  
遠く人々仕向し 遠くハ先役の者も物

後任の者の誠度うかきぬゆりりも柄と  
人こがしうるこものしく先任の者在柄  
よそ界をひき誹任の者を事とせり  
丹の外には自君の在柄えぬゆい  
替りしとたくみて先任の者より御  
さるも柄とせんといひ自分の仁心して柄  
如事ハ常々これとせり勸免人の仁心  
たるといハ等家よりいせり人の侍より

柄柄

しうにても壞す之若境の彼壞すといふ  
こハ先任の者在誹任の者より方ゆり居たとい  
跡任の者在先任の住方り居たといは月如事  
を多ゆりまぬを主人の在柄と不場とを  
か々難きあり

・ 氷の跡方の院とよまはるんとしとん  
早魁侯より久し氷雜なるは氷雜の  
あしハ志として院の所後とぬり夏草

或一とる昔儀をあるのて〜ねとひ等系  
ある大氷割と交切様〜平日ゆめ  
や〜河原を〜さるや

一 氷の清水の河は〜川沙の川を分  
氷を色江に水弱くなると川下へ  
切るものなり

一 海口の埋る氷筋をつけ流氷を推流を  
舟にはさる〜河上切るま〜河下へ埋る

このまを河下切る也〜河上切るとに氷を  
舟に列ま〜河成掘氷を流〜ては是ハ  
舟の埋る〜流なき事なり

一 氷の筋方から流る舟〜舟を〜舟を  
〜流に氷と流〜舟に舟に舟に  
舟に舟〜遠井は幾時舟〜一氷にて  
掘氷を〜舟に遠井舟を舟にて舟を  
〜一とる減氷壩と云是より舟を



中筋とのち、既破損を免かる迄、  
遠井を切ると、坑筋より落ち、  
のちを切ると、坑筋より落ち、  
石より身を切る遠井、  
撤去するなりと、  
一

一 既の切付、先急よ、  
圓ふ、  
あつより、  
一

圓い、  
ま、  
を切、  
葉、  
時、  
この、  
落、  
の、

一 蛇の根は藤類根の云々、心算の條を  
製く桂——根を下す、つらと生れ、  
海に付にぬえ、又、右と左を流流をそく  
す

一 大木の高麗を食する人、夫、新布有て、  
虫に喰れ、虫儀の根を喰り、虫、  
あつ、圓い虫と蛇と、木を食せ、  
一 夜、よ、ちり、省、生、の、音、を、  
て、夜、入、意、為、き

とのこほを渡す、と、  
時代り、  
次の代合の、  
舟、人、の、た、ぬ、

一 大木の高麗を食する人、  
海、  
氣、  
を、

一 西の最も者ハ俄の大難ナシにして西  
ノ事トシテ修居トシテ人衆試シテ居  
中ニ西ヤリシ居ノ間ニ接シテ来テも知  
スル人取テハ其意ナシトシテ西  
在邦ノ事ニ其意ナシテ其意ナシ  
又ハ其意ナシ  
一 理起リテ其意ナシトシテ其意ナシ

一 西の最も者ハ俄の大難ナシにして西  
ノ事トシテ修居トシテ人衆試シテ居  
中ニ西ヤリシ居ノ間ニ接シテ来テも知  
スル人取テハ其意ナシトシテ西  
在邦ノ事ニ其意ナシテ其意ナシ  
又ハ其意ナシ  
一 理起リテ其意ナシトシテ其意ナシ



身方の人数と一雨にきふへ——引水にきふ  
りる連店——農業を妨ぎる中へは——  
是ハ吃の事となすも汽流の百姓も吃切と  
下れハ甚緒多にふれ事なり

一衣人は小倉程隔てハ辰急難ある村介の  
小倉ハ初とくくくうけ着てく林ハぬれ  
小倉毎に目下の積る所とい概勢を建  
てむ時自と今もそれハ法小倉より早速

池は多一ツ小倉防りてハ甚切合し

一段と他より強切に色く有自りの田代

丸り切一之地他又ハ為田也云を入るた

切二や主統にて切三ハ洪水にく自らの

既免さ少一他の段と切にたり吃の上昔

か——是れも高とハ風敷或ハ度入る中ハ

右の丁と此の害に多ふたが森とはけ

へまきとたり

一 水の真うけは去流さとのなりし外極き  
 阿のき海より附ハ助強さとのやたしくハ  
 川流の堤切もしくも抑危程をしく去流六  
 難有しつゝ抑危ハ川流よりたゞ程をく  
 よき去流にてぬて堅く常魚ハ水の枝ニ流  
 廣く水も抑危の切も難なるも——  
 一 海への落口いとうも也流さるも——川下に  
 匠うく有るハ河と也まき——

一 急なる上水を減——堤要害をかたはハ  
 減水壩にあくせか——  
 一 法も小倉不足なりハ杖の末以坊小倉を  
 まきく法もと多く貯入進番を所進  
 堤取極の様子にありとしく修理と  
 加ふ——人丈の内不坊成外計の者取ハ  
 穿鑿——急度外と——  
 一 堤取り人足小倉の番人足りといふの

八月月中旬より人足と引連れて来り  
九月より引れなす

一 河の治方ハ如て大切なる事なるといふは  
よき人に非任せしむる事と能く  
果進よと云ふは一人に河方の  
用向と云ふたうは其角物事法  
よてハ行つとも只を役はをた人  
なりてと行つぬものなり

一 切所を築つる事ありより土を以て築  
土儀杭木などをも固め河用に用互ぬ  
ち取を買上る事古を入洗る土儀の古  
築らぬやうに堅く結入る

一 河を築る役人ハ骨髄精を入る役候と  
大切に心懸け切石切英他評のせり  
にかへは候もせん勅方の言も貴買  
と上の心懸による一柳の評候は我より



重役の者に於て我々の只を夜の南のま  
のまに精を入いふやうの世の事をも  
願ひた精カ一盞に勤む——を上に  
上の字ホトのいそぎをな——  
守り時をぬく——  
堅くちた包う——  
やうやうを又上の事折るる  
るるを中か——

吟味——  
物来るてはな——  
是もは上記事と心易法と交まらば  
その——  
はうたる——

一河方法よふぬと重信ははらも後  
やうに——

所に又支如と并一よと一入用は法道其  
事圓のやうに多く極一進一一金債  
有りて職してが却る不ぬありあり  
法道の進位と職法も職も少く法も是  
とあり一となり久交蓄して性のぬけたる  
あること相合ふれば是れ今日一利と  
いふものなり又津田の物と盗利の者有  
り等ハ是れ復其と謂ふ事也

一河方と當る役人も心ふしく其文有者も  
撰ひて育(きこ)人の佛を之面ハ初て易  
おきてし一御心役の事ハ容易に知と難  
いし人の撰ひ方ハむじかき事也  
一役然と位と久しく勤物事と其よ  
徳のよきて居る程の者に根とハ行ぬ  
とのや河の流ると出水の勢時と遠い  
所方ハ色々あり法も或ハ進位の吟味

人をきひ方より侍所の目付けを備へて  
漸く吟味し是ありての事こそ志願の  
百に合ふし一役と勤者も人情をも  
主君とわきまを及ぶ久しく勤人又世  
を厭ひて業を好む若くは役どのうをせ  
幸とんづくと一役毎に重きと云ふ  
人も當知りハある事のなり

一 河名の子の事ハ席上のり筒にてハ行状

親しきを備ふは行見録ハ石川の御子  
常侍仕方の音息ハ知と社

一 勤者及明りて物事とや之を  
撰てて之を不しをい他行させまは  
横亥子夜一外行方行也

一 河を治る事ハ人力で治る事仕色を  
天員て是事をかきしと他行まは  
院切換りて役人每人丈も思有て



役人の衆を役目ばかりなるとの一向坊の  
人へのいふ所ありて、さういふと云ふ事も  
毎一と違ふ事の因縁とを云ふ事も人の心  
とも何のさう知るとして居るものあり  
又公事多き事を好むに似て人々物を採  
りて公事と心算の者有るは、此のさういふ説の  
取柄を所信する切りとこのむや、人々の  
飛ぶ切手、御市、人足賃と云ふ事を

好む事、あつてを嫌ふつゝ、  
もとを一切取るともなり

一 陸と京くは、此を略く、菜園と一、菜  
上りと云ふ、後、針の山、あや、今、あつて  
まゝ、いふ

一 蕨野の物、年々、各別の事と云ふ、は、智恵の  
あつて、人の可、言、さ、付、と、思、一、此、仕、解、と  
用、あ、た、い、も、さ、事、に、は、く、れ、あ、る、人、情

にて是ハ先を以ての仕癖より主として  
ある事なりよるハ大なる恩一吾の門徒  
衆に於て若き者勸導なく恩恵との  
別ありしなり

一 川くの事ハ重市と勸のぼりハ孔道として  
卯の行まてり合勸とハ始て行言言を  
一白物事一其年月を竹竹と漸く訓  
年月と初なりハ別也代合也竹竹

ら事なり

一 切口の常ハ水勢の活き首ハと難  
履きと竹ハ白物事一水勢とゆめり  
ハハ水勢ハ河切口の川上にて  
水道と竹水勢とゆめり又ハ兼て水  
多ハ流ハ下と流ハ物並一  
切口ハ水進ハ活き首ハ河ハ水勢強  
砂流ハ埋ハり後ハ河ハ

氷積り多しは國と云ふ又この切りも其  
首一篇増刻して右の海なる氷を引け  
氷積り多しは國と云ふ又この切りも其  
取換の意なり又氷勢の實當刻り凡  
時多し一篇小河を流し又この河  
流の中より一  
段切布敷多し有河川下の小き切口より  
修り上へ築より大切只修り多し哲人教

と云け築一大切布と切りに築一  
小切口一氷進り多し是又大切只修り一  
一河上の氷を量りて下の河中流を程能は  
氷勢をぬく一き開き遠升或は氷積り  
かきとを極く重し一河下流とて氷積  
り多しと沙漏多しは上より減る所の空  
中河川入る河の水を一ツまゝ一その  
氷積り多し沙を推し流るるに似せし



一河原院後方の生迷、去と朽道の邊、迷子  
よふ女を捕ま置方、其仲は痛を一つ片付  
たも小き車と二人扱子して、里を各々  
便利なや、以て痛の車は、足川の布を、  
有る布、痛を有る布を、  
よふ、八個、  
吟集より、  
吹合皮の貴ら、

一 首子白ハ仕事も早く、  
石に、ハ小き車、  
一 既、  
利い木、  
益、  
益、  
云、  
一

植下りし一二年を待つて柿を  
おきんす所の柳をその所の破換し  
老くハソ益基大也

立春のあし柿を柳ハまハま一移る  
時長出居まことりものや又根自ら  
かハ己料(根)とむま(根)一とあま  
を大民路浅とむまことハ根可一の  
一本根付まハ己志ハむかハ植下り

此ハ木敷を多くするなり

一 院と築ハ院邊をよそ古と築丸トを  
院を離り事十おハの介を丸ト  
四米可くハ院を改むト一と一ハ  
古と築事七寸からハおすハ成すハ石原  
元ハ一尺五ハ七寸ハ成すハ石原一階ハ  
ハトくハ一階上ハ一院のハ配  
五尺ハ一五寸余ハ白丸ト一

一 水原より新の古丸新く他取丸  
梅をゆき取丸ももと一 是ハ坊師  
より出来改む一

一 河原の古ハ河原をよま一 是ハ坊師  
主一 出来形ハ後々改む一  
活佛さまと人まもる賃あをむ一  
後ハ新き取の活佛さま取と能成  
人ハ是代のまもと茶と一

一 院原方の人足惣ハ院のまもる銀易り  
より一 是別有一 ままハ仕組一 世さ  
仕す一 その中より下は仕組仕す  
上は仕組仕組一 高きよにまもる上の  
控ハ例ハ抱るたし一 是をよか古取高の  
遠近と考一 是ハ泥代するハ別  
仕組一

一 院を原ハ水中より古を丸ハ院の



根を交めおより去とせしめて無中  
除院を築芝草にて園の切をぬやうに  
その中の水とかいふ一帯一帯の根を十交  
ゆえ去とせしめて一帯の院字を記すは  
水難の言はれぬ由は法をよとほくぬやう  
し別を——たてしむ切の荷の能く使  
ぬ極待たるるよに人丈拵居てし園の  
道をるりぬかえうこうと事とほく

そのなり法を求ふ二信有書物と  
いふその物の存するありてとせしめて  
伐石とせしめりて是伐石辨と云又又  
も亦より買らるあり是と病辨と云  
二信も九板方板しの名物もよとせしめて  
たると丸角よとせしめてを撰ててし使になり  
貴丹とせしめて是と勵まに云うは  
一冬日川清と云一院を築く人丈拵

するやうに身をも洒身を快す一恩  
目ハ短くぬやうに有るを施一此等  
りて恩に感ずるやうに有る人其  
れ在りて御きて善信のふくむと行在  
る一

一 隆の理を有る時と此後人云月て何言  
何言と隆理と一 その此後と何又  
舞の役人誰と云事と石子形月との

親目よ建並けハ古境を新隆の如縁  
くの類なり

一 隆の業方盛くを多とぬき上化縁と  
能成はあり多の全縁と貴くして法不  
破換絶は古隆と業とたれハ先  
古境と堅くなるを業園ありとの  
新去を和くして堅く業也一 新業  
隆ハ先年此と救寸減る月と業園あり

之上(古)と云へハ豫園の(王)と云へ  
院を而して九(下)と云へ(墓)下(下)と  
掃墓(古)事(古)と云へ掃墓(古)と云へ(古)の  
役人(古)事(古)と云へ(古)の役人(古)事(古)  
何(古)ハ(古)事(古)と云へ(古)の役人(古)事(古)  
なり(古)ハ(古)事(古)と云へ(古)の役人(古)事(古)  
有(古)一

一 杭木河(古)葉の(古)能(古)事(古)改(古)下



愛 知 県



1105566544